

平成30年度第2回加西市総合教育会議 会議録

1 開会日時 平成30年10月29日(月) 15時30分

2 閉会日時 同日 17時10分

3 開催場所 加西市役所1階 多目的ホール

4 出席委員 市長 西村 和 平
教育長 兼 松 儀 郎
教育長職務代理者 多 田 久 子
委員 渡 邊 隆 信
委員 沼 澤 郁 美
委員 楠 田 初 美

5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

ふるさと創造部長	森 井 和 喜
ふるさと創造部 人口増政策課長	藤 後 靖
ふるさと創造部 人口増政策課主任	岩 野 裕 之
教育委員会教育部長	繁 中 一 也
教育委員会次長(子育て未来政策担当)	中 倉 建 男
教育委員会次長兼教育総務課長	内 藤 利 樹
教育委員会参事兼学校教育課長	本 玉 義 人
教育委員会 こども未来課長	伊 藤 勝
教育委員会 生涯学習課長	森 幸 三
教育委員会 図書館長	菅 野 広 美
教育委員会 総合教育センター所長	吉 村 靖
教育委員会 教育総務課主幹兼施設係長	井 上 英 文
教育委員会 学校教育課主幹	小 坂 卓 司
教育委員会 生涯学習課主幹	永 井 信 弘

6 傍聴者 一般：なし、報道機関：なし

7 協議事項

- (1) 平成31年度予算について
- (2) 学校現場における業務の適正化に向けて
- (3) その他

8 会議内容

別紙のとおり

1 開会

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議事項

(1) 平成31年度予算について

〔事務局より説明〕

〔意見・質疑〕

委員 給食施設の建設について、国庫補助金の交付は決定しているのか。

事務局 現段階では決定していない。

市長 平成30年度に当初予算で計上し、国庫補助金の交付決定を持って実施することを予定していたが、多くの自治体から老朽化による国庫補助金の申請がなされている状況があり、残念ながら今年度は不採択となったため、来年度に延期をしている。引き続き、給食施設の建設については、国庫補助金の交付決定を持って実施する。

委員 加西市では教育予算における、特に学校図書備品費が充実していてありがたいと思う。先日も研修に参加し、脳の発達に対する読書の重要性を学んだ。来年度も引き続きお願いしたい。

事務局 各校において、図書システムや図書カード等で本の貸出の統計をとっているが、学校図書備品費の充実により新しい本がたくさん入ってくるため、児童生徒の読書意欲も盛んになり、非常に良い図書環境ができている。

委員 学校図書備品費は毎年定額になっているのか。

市長 3年前より計画的に実施しており、今年度からは新聞の購入についても別費用で計上している。

委員 購入は新本のみなのか。本の修理等は行っているのか。

事務局 基本的に購入は新本のみである。本の修理については、可能な限り行っており、ボランティアの協力を得ながら修理を行っている学校もある。

委員 先日、同じく研修にて読書の重要性を学んだ。この学校図書備品費は十分な費用であるのか。今まではどうであったのか。もう少しあってもいいと思う。また、幼児教育の充実も十分図っていただきたい。

事務局 学校図書備品費用が多いことに越したことはないが、現在も充実しており、継続をしてもらいたい。今までは、学校図書備品費ではなく教育予算という大枠の中で図書備品費を配分しており、現状のような多額の費用ではなかった。また、

本の選書については図書館や各校の司書等の専門的な意見や図書システムによる統計によって行っている。

市長 3年前より新しく学校図書に限定した備品費を設定し、各校区別なく配分して学校図書の充実を図っており、継続して実施することが重要である。

幼児教育についても非常に重要であると認識しており、幼稚園・保育教諭を正規職員としてしっかり採用してきている。人材確保が難しい状況ではあるが、正規職員の割合が半分ぐらいになるよう目指していきたい。また、認定こども園化を進めており、ほぼ市内全域の小中学校区に設置される予定となっている。

委員 待機児童問題について、なかなか園に入れない子どももたくさんあると聞く。

市長 低年齢児の需要が増えてきている。その対応は、引き続き充実していきたい。

委員 教職員の勤務時間の適正化については、ティーム・ティーチングが効果的ではないかと思い、特に大規模の学校で充実してほしいと思う。授業準備や指導など仕事の分担ができ、教職員の負担も減っていく。

委員 教職員の「質」と「量」を高めていくことが大事であると考えている。

「質」については引き続き充実した研修等を行ってほしい。「量」については、大幅に授業時間が増える外国語教育に対応するALTや、複雑化・多様化した家庭環境へ対応するSSWなど専門的なスタッフの適正配置を各学校の意見を聞きながら充実してほしい。

事務局 SSWは総合教育センターに1名勤務しており、4中学校区を週1日ずつ巡回している。各関係機関と連携しながら家庭訪問等を行っている。

市長 不登校問題は加西市として大きな課題となっている。今のSSWの人員数について、もし増員すれば効果的な施策となるのか。また、その増員について、SSWの要件となる資格がネックになるのであれば、OB等を活用できないか。

事務局 SSWの採用については県からの補助があり、週4日間の中学校区での勤務が対象で、そのうちの3分の1を県が補助し、残りは市費となる。

事務局 SSWはスクールカウンセラーと協働・連携して対応しており、県はスクールカウンセラーを週1日各中学校に配置していることから、SSWも同様に各中学校1日の配置について補助対象としている。また、県で採用しているSSWは指定の資格が必須要件となっているが、市への補助については必ずしも必須要件ではなく、校長のOB等を配置している自治体もある。

委員 幼児教育の充実について、加西市の小学校は公立のみであり、そこへあがってくる保育所、認定こども園には公立と私立がある。それぞれの方針が様々なので、小学校に入学した際に児童がギャップを感じるのでは。学校経営の違いによって公立と私立の教育指導の共有化は難しいものなのか。全体的にさらに向上できるように検討していただきたい。

事務局 公立園で研修会を行う際には、私立園へも声掛けは行っている。ただ、各園における勤務時間等の都合で出席しにくいという状況があるため、保育士のみならず事務方の先生も含めて研修に参加できるよう検討していきたい。

委員 地域との連携について、昔の子どもは様々な大人と関わることによって成長してきた。今後とも是非充実させていただきたい。

(2) 学校現場における業務の適正化に向けて

〔事務局より説明〕

〔意見・質疑〕

市長 国から示されている取り組むべき方策について、加西市の進捗はどのような状況か。

事務局 各学校が共通して取り組んでいる内容として、「ノー部活デー」、「ノー会議デー」、「ノー残業デー」を設定している。「ノー部活デー」については、この二学期より休養日を従来から増やす予定としている。さらに、1名ではあるが顧問の代わりに指導する外部指導員を配置し、1つのモデルとして進めている。また、「ノー残業デー」については、実情として定時での退校は難しいが、中学校では部活動終了後1時間以内、小学校では18時を目安としている。立ち番のボランティアやワッシュイスクールなどの従来から取り組みによって教師の意識もついてきているが、なかなか協議を行わないと実現できないものもあり、それが今回挙げている「学校給食費の公会計化」や「自動音声応答システム」である。

市長 「自動音声応答システム」については導入できるのではないのか。保護者からの緊急連絡はどのくらいあるのか。

事務局 導入した場合、自動音声に切り替わった後で連絡がとれなくなった保護者への対応をどのように行うかを検討する必要がある。

事務局 保護者からの緊急連絡について、この夏休みに閉庁日を設けたが、連絡は全くなかった。また、命に係わるような緊急な連絡は警察や消防から直接管理職に連絡する体制がある。現場からも導入してほしいという要望があり、定着するまでは批判等、色々あると思うが、定着したら効果があると思う。前向きに検討したい。

委員 連絡できる時間をきっちりと決めておけば、保護者もその時間までに連絡するなど意識されるのではないか。

市長 公会計化についても他自治体の導入状況や個人情報保護の観点もあり、前向きに検討してほしい。

事務局 文部科学省のガイドラインが出るので、それを受けて検討していきたい。

委員 教職員の出勤管理は行えていると思うが、時間管理についてはデータ管理等、

適切に行われているのか。

事務局 今年度、県による全数調査を行っており、来年度にはそのまとめが報告される予定である。

- (3) その他
- 特になし

5 閉会